

建築BIMの社会実装に向けた今後の取組と将来像

国土交通省 住宅局

2023年5月30日

①BIMによる建築確認の環境整備、②データ連携環境の整備、③維持管理・運用段階におけるデジタル化を進めることにより、建築BIMの社会実装の加速化を図る。

1. BIMによる建築確認の環境整備

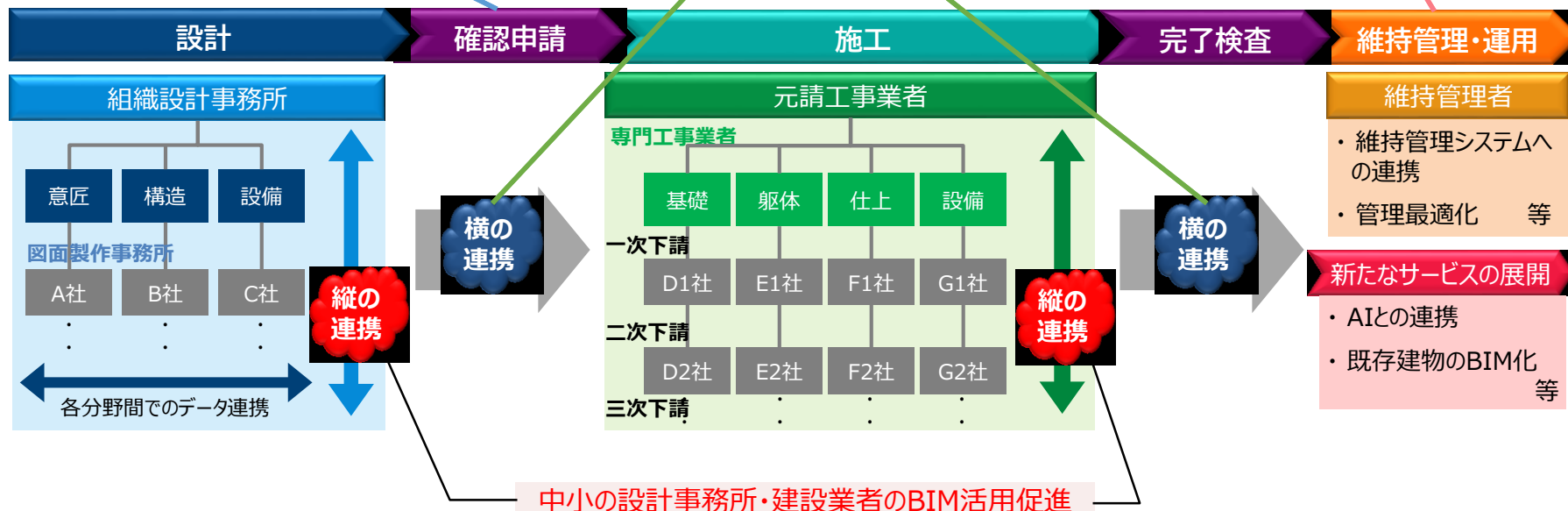
BIMによる確認申請を可能に

2. データ連携環境の整備

横断的活用の円滑化

3. 維持管理・運用段階におけるデジタル化

維持管理・運用段階の利用促進

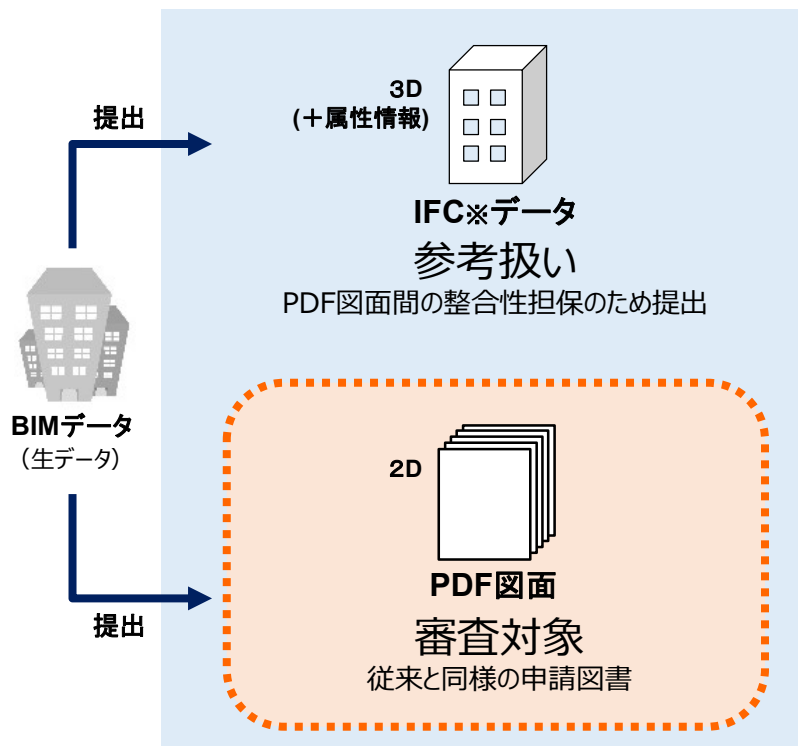


BIM図面審査

BIMデータから出力されたIFCデータとPDF図面の提出により、図面間の整合チェックが不要となり、審査期間の短縮に寄与

2025
開始

2027
全国展開



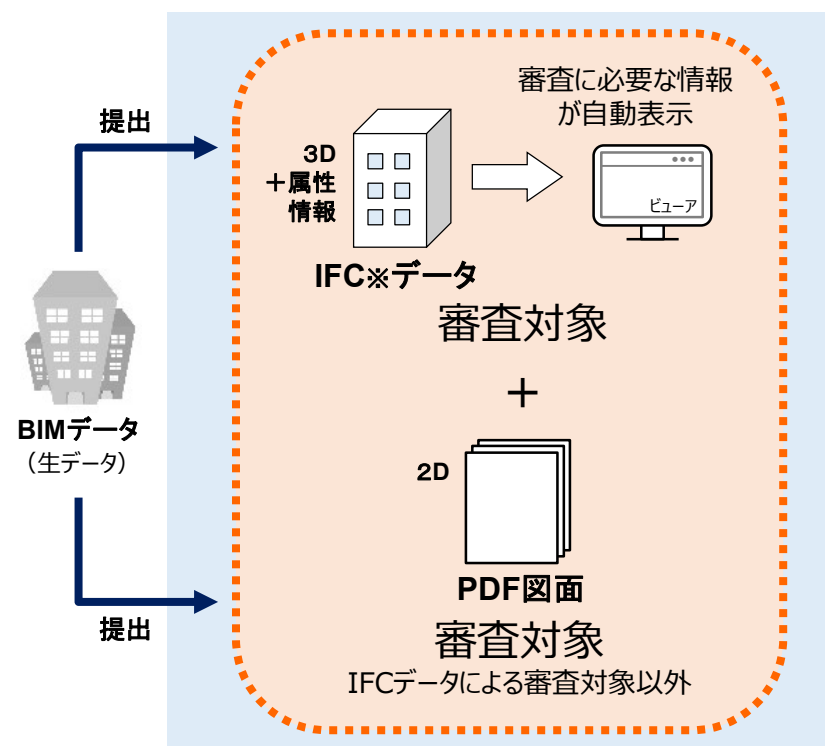
BIMデータ審査

IFCデータを審査に活用し、審査に必要な情報が自動表示されることにより、更なる審査の効率化（審査期間の更なる短縮）に寄与

並行して検討

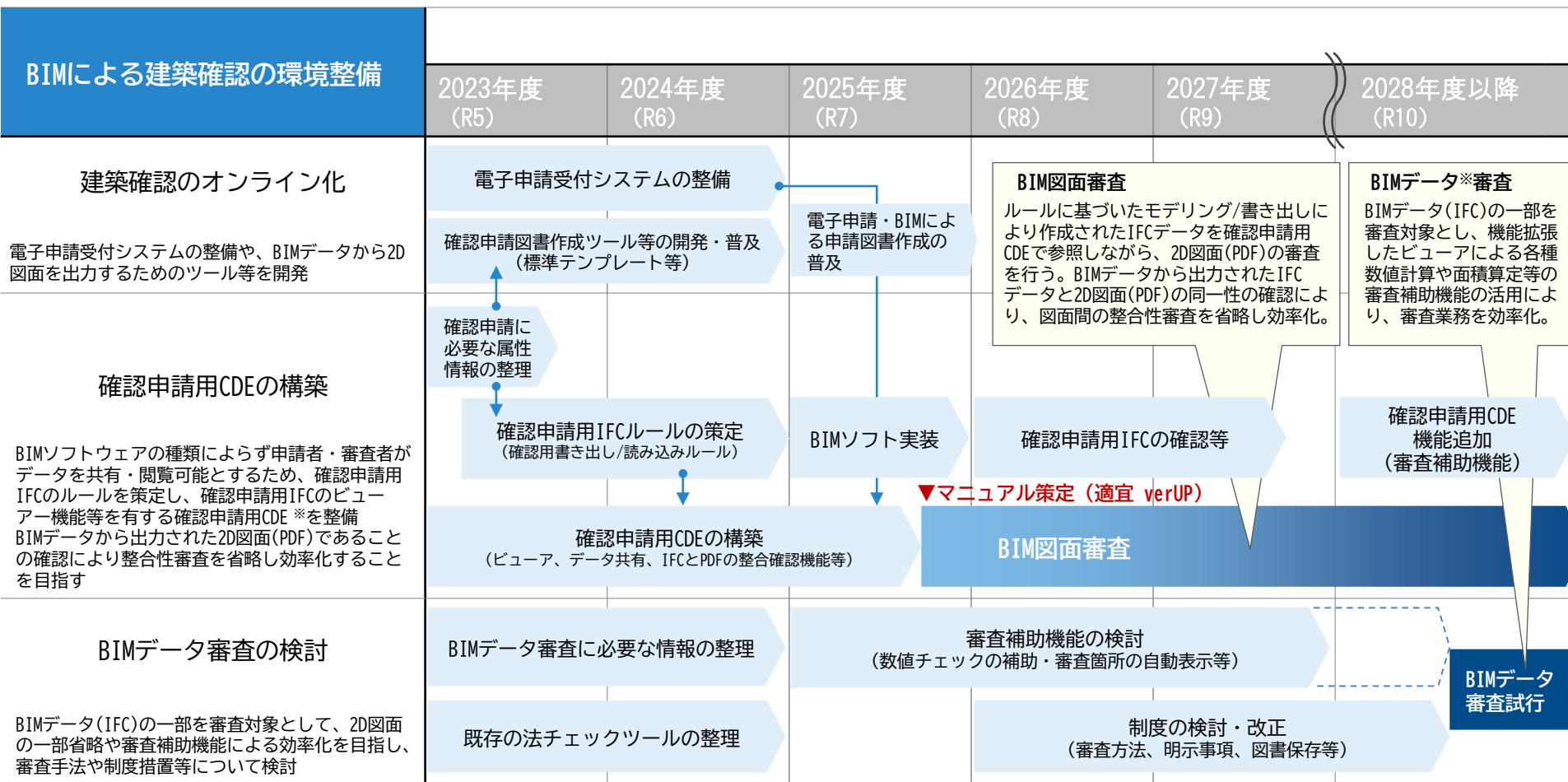
将来像

IFCデータを活用した
審査対象を順次拡大



1. BIMによる建築確認の環境整備

新築する建築物のほぼ全てが経る確認申請をBIMデータを用いて行うことができるようにすることで、申請・審査の効率化を図るとともに、共通化されたBIMデータやその伝達手法を社会に共有し、BIMの可能性を更に広げる。

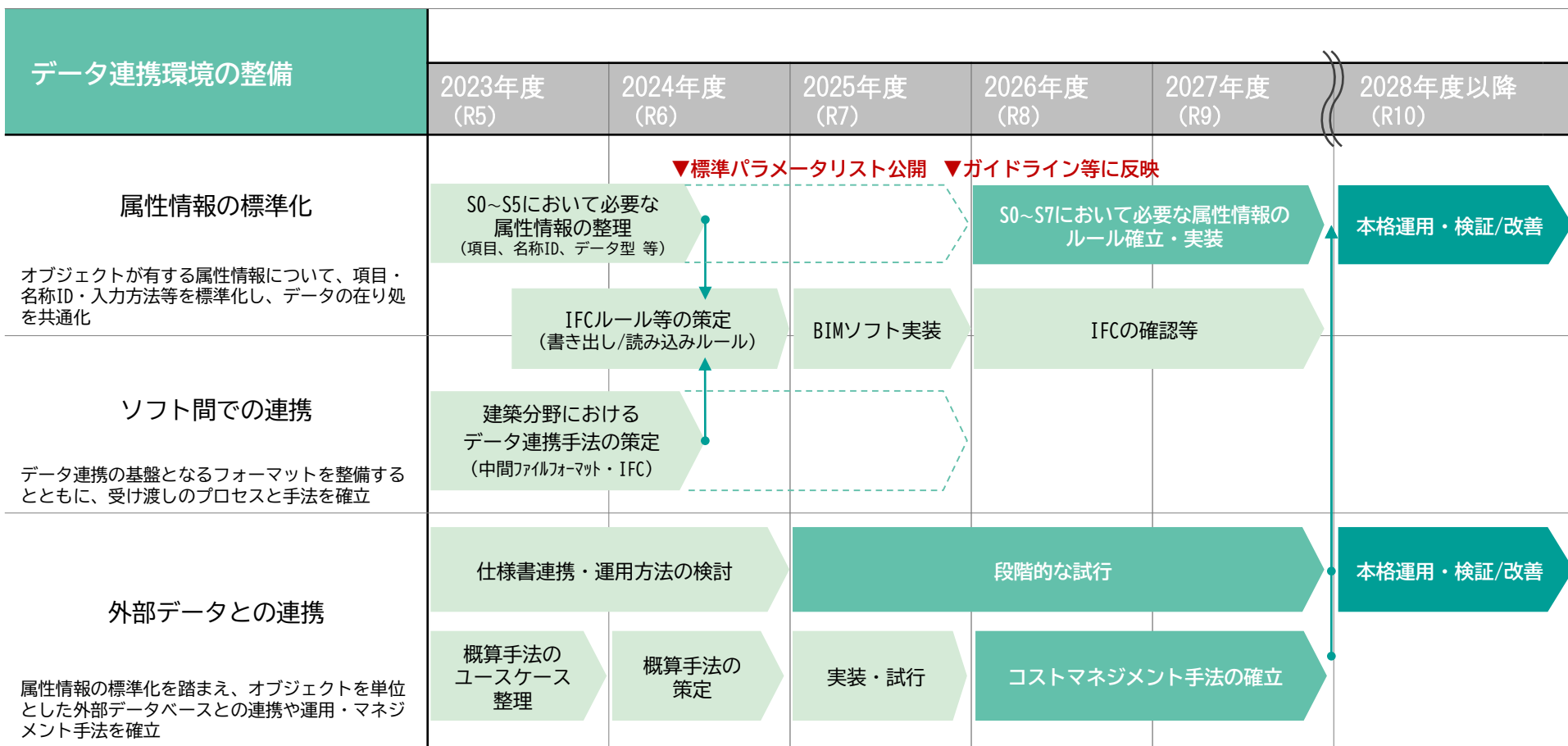


※CDE(Common Data Environment)：共通データ環境

※BIMデータ：BIM モデルに加え、BIM 上での2D による加筆も含めた全体の情報をいう。

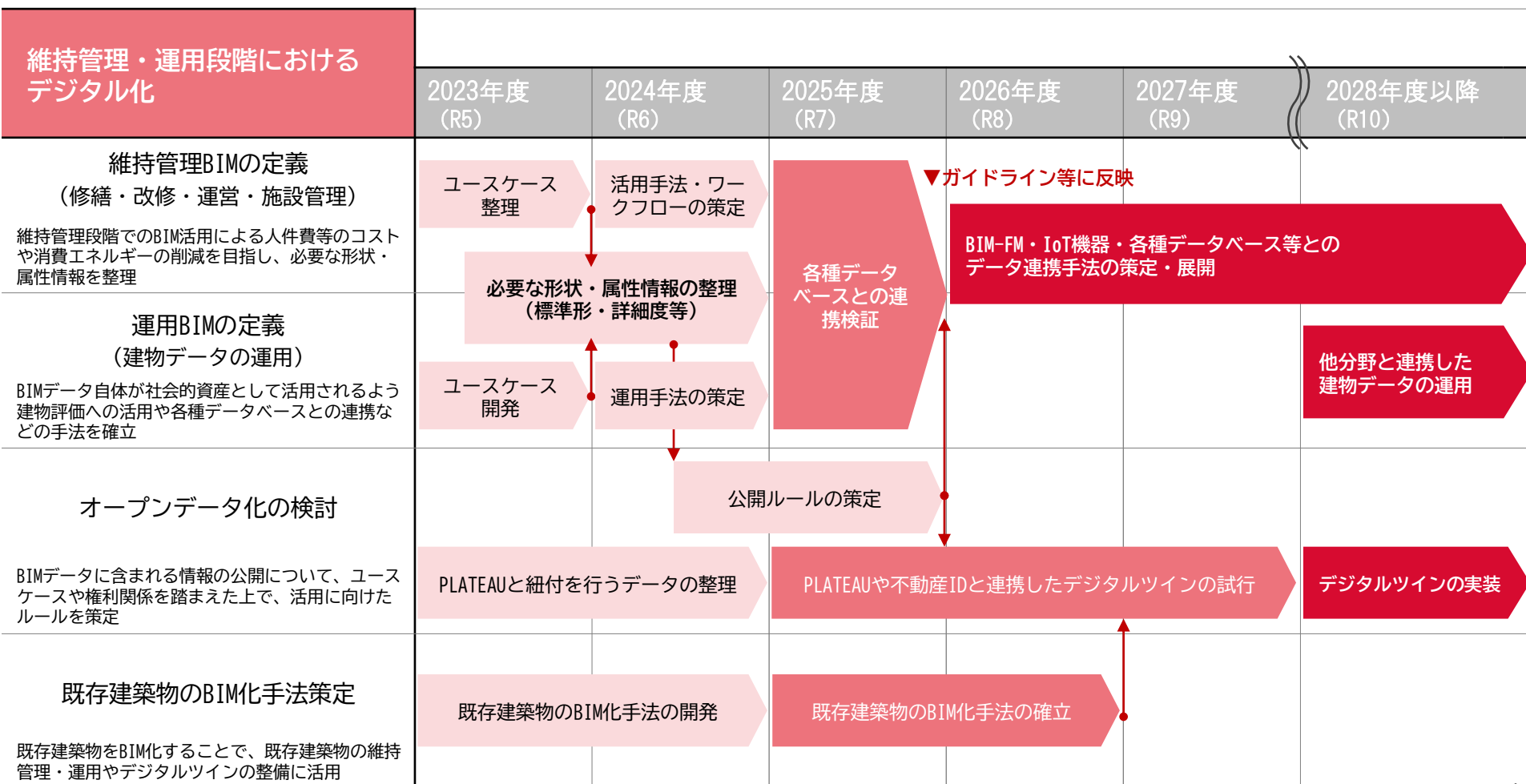
2. データ連携環境の整備

データ入力ルール等の整備（データの標準化）とデータの受け渡しルール等の共通化を進めることで、設計・施工・維持管理等プレーヤー間でのBIMデータの横断的活用を進め、建築分野における生産性向上を実現する。



3. 維持管理・運用段階におけるデジタル化

維持管理・運用手法のデジタル化の中で、BIMデータを活用することにより、新築・既存建築物の維持管理業務の効率化や、デジタルツインの実現による他分野（不動産・物流・エネルギー等）と連携した建物データの運用を可能とする。



建築BIMの将来像と工程表 検討体制について

MLIT

○部会を横断する課題・データの利用拡大に資する重要課題について、連携すべきインプットとアウトプットを明確にした個別のTF（タスクフォース）を設置し、社会実装を加速化

BIMの形状と属性情報の標準化

BIMの情報共有基盤の整備

BIMを活用した確認検査の実施

BIMによる積算の標準化

部会②

BIMライブラリ
技術研究組合(BLCJ)

- ✓ 建築、構造、設備の
属性情報の標準化
(空間、床、壁、天井、防水、外壁は
未整備)

部会⑤

Building SMART Japan

- ✓ IFC・ビューア・CDEに
係る初期検討
- ✓ 施工段階の属性情報の
標準化（一部のみ）

部会③

建築確認における
BIM活用推進協議会

- ✓ BIMの生データを用いた
審査方法の検討
- ✓ 審査に適したBIMビュー
アの検討

部会④

日本建築積算協会

- ✓ BIMによる積算手法検討
- ✓ 建築物の部位や設備等
の分類体系を整備

[維持管理・運用段階
におけるデジタル化]
は別途検討

【R5新設】

審査TF

[リーダー：部会3]

[BIMによる建築確認の環境整備]

- ・ 確認審査用の属性情報の整理
- ・ 確認申請用IFC等のルール策定
- ・ 確認申請用ビューア・CDEの仕様書作成

【R5新設】

標準化TF

[リーダー：部会5]

[データ連携環境の整備]

- ・ 設計、施工段階での属性情報の標準化
- ・ ソフトウェア間・外部データとの連携方法の確立

部会①

国土交通省

BIMを活用した建築生産・維持
管理に係るワークフローの整備

- ・ 将来像と工程表
- ・ ガイドライン 等

【R5新設】

戦略WG

各TFの進捗管理、部会①の部会長への報告

- ✓ TFの運営・実施
- ・ 関連部会の主要メンバー
で構成
(必要に応じて関係団体)
- ・ ロードマップに基づき
ワークと役割分担を整理

- ✓ 戦略WGの運営・実施
- ・ 定期的に各TFの進捗を
管理